

# (新発見を契機に判明) 十八世紀後半に建立された 越谷市周辺の4基の「青面金剛」篆書体文字庚申塔

秦野 秀明

はじめに

管見の限り「未調査・未報告」であった

①安永九年(一七八〇)九月建立「青面金剛」篆書体文字庚申塔

(埼玉県越谷市内・某所)(注1)

に関して、令和7年9月16日(火)、秦野 秀明によって作成された「調査・報告書」は、越谷市教育委員会への配布及びNPO法人越谷市郷土研究会ホームページへの掲載が行われ、公表された。

その「調査・報告」の際、①の庚申塔の「塔身」に刻まれた「篆書体」と大変良く似た「筆遣い」で表現される

②寛政二年(一七九〇)四月建立「青面金剛」篆書体文字庚申塔

(埼玉県北葛飾郡松伏町築比地)(注2)

③寛政七年(一七九五)二月建立「青面金剛」篆書体文字庚申塔

(埼玉県春日部市西金野井)(注3)

の2基が、先行研究により「調査・報告」が行われていた事実も判明した。

さらに、①②③の庚申塔を比較検討することで、①の庚申塔は、②の庚申塔に対して「10年前」、③の庚申塔に対して「15年前」に建立されていたことも判明した。

尚、①の庚申塔には「揮毫者名」、「落款印」、「石工名」が刻まれていないが、②の庚申塔には「揮毫者名」、「落款印」、「石工名」が刻まれており、③の庚申塔には「揮毫者名」、「落款印」が刻まれている。

結びにかえて

以上の「調査・報告書」の公表後に、さらに1基が、先行研究により「調査・報告」が行われていた事実も新たに判明した。

④明和五年(一七六八)正月建立「青面金剛」篆書体文字庚申塔

(埼玉県春日部市西金野井)(注4)

である。

ゆえに、十八世紀後半に建立された越谷市周辺の「青面金剛」篆書体文字庚申塔の総数は4基で、④の庚申塔が最古の建立であることが新たに判明した。

尚、④の庚申塔には「揮毫者名」が刻まれている。

注

(1) 秦野 秀明 (二〇二五)「安永九年(一七八〇)「青面金剛」文字庚申塔」

[https://koshigayahistory.org/250912\\_1780\\_kohshintoh\\_hatano.pdf](https://koshigayahistory.org/250912_1780_kohshintoh_hatano.pdf)

※ A 越谷市史編さん室編(一九六九)『越谷市金石資料集』越谷市史編さん室

B NPO法人越谷市郷土研究会 加藤 幸一氏の「石仏悉皆調査」

のいずれの出版においても「未調査・未記載」であった

(2) 松伏町教育委員会編(二〇二四)

『松伏町史 文化財編(石造物・絵馬・指定文化財)』松伏町教育委員会 p.117

※ NPO法人越谷市郷土研究会 須藤 賢一氏のブログ「けんちゃん!」

<https://happy-kenchan.com/tenshotai-koshinto-nishikananoi/>

を閲覧して情報を入力

(3) 日本石仏協会編(一九九七)『石仏巡り入門―見方・愉しみ方』大法輪閣

日本石仏協会編(二〇一一)『新版・石仏探訪必携ハンドブック』青娥書房

※ NPO法人越谷市郷土研究会 須藤 賢一氏のX「石仏のある風景」

[https://x.com/sekibutsu\\_photo/status/1956141218733416468](https://x.com/sekibutsu_photo/status/1956141218733416468)

を閲覧して情報を入力

(4) 「みんなの石仏調査アーカイブ」(データ作成者 sekinema データ作成日 2023.4.7)

<https://archives.sekibutsu.info/10658.html>

※ NPO法人越谷市郷土研究会 須藤 賢一氏からの情報提供



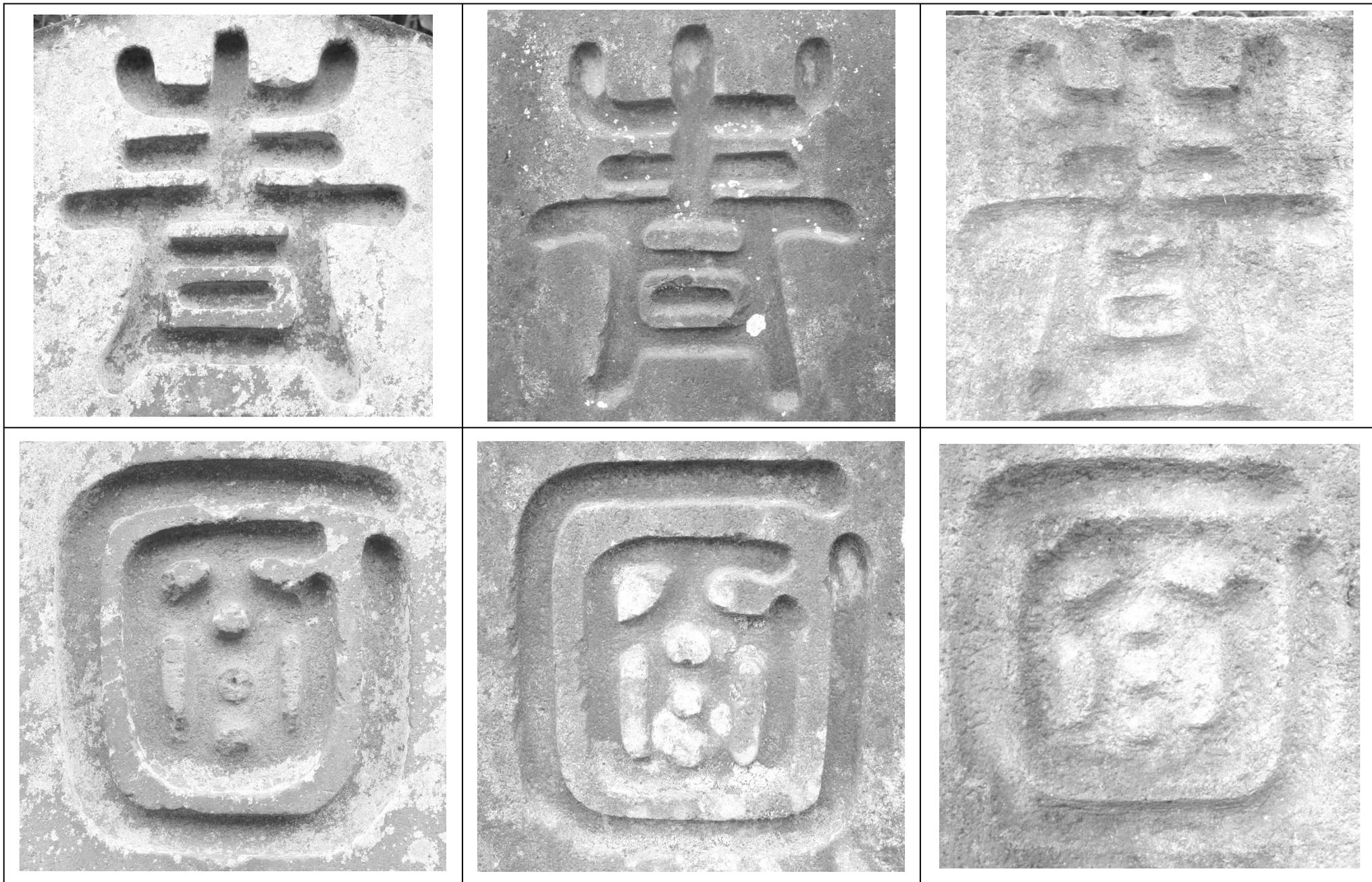
③寛政七年（1795）二月建立  
「青面金剛」篆書体文字庚申塔  
（春日部市西金野井）  
（撮影：2025年9月14日）



②寛政二年（1790）四月建立  
「青面金剛」篆書体文字庚申塔  
（北葛飾郡松伏町築比地）  
（撮影：2025年9月14日）



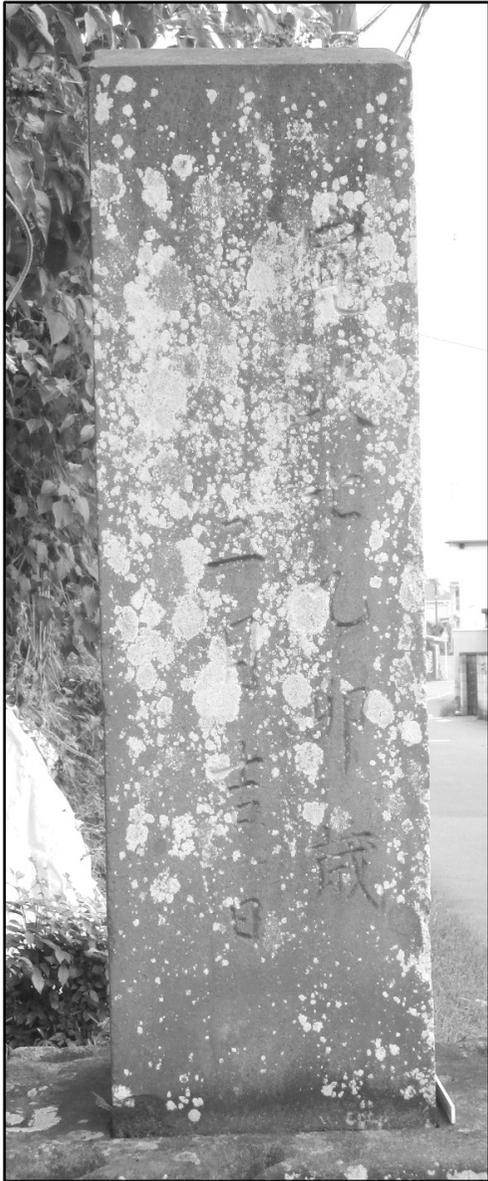
①安永九年（1780）九月建立  
「青面金剛」篆書体文字庚申塔  
（越谷市内・某所）  
（撮影：2025年9月11日）



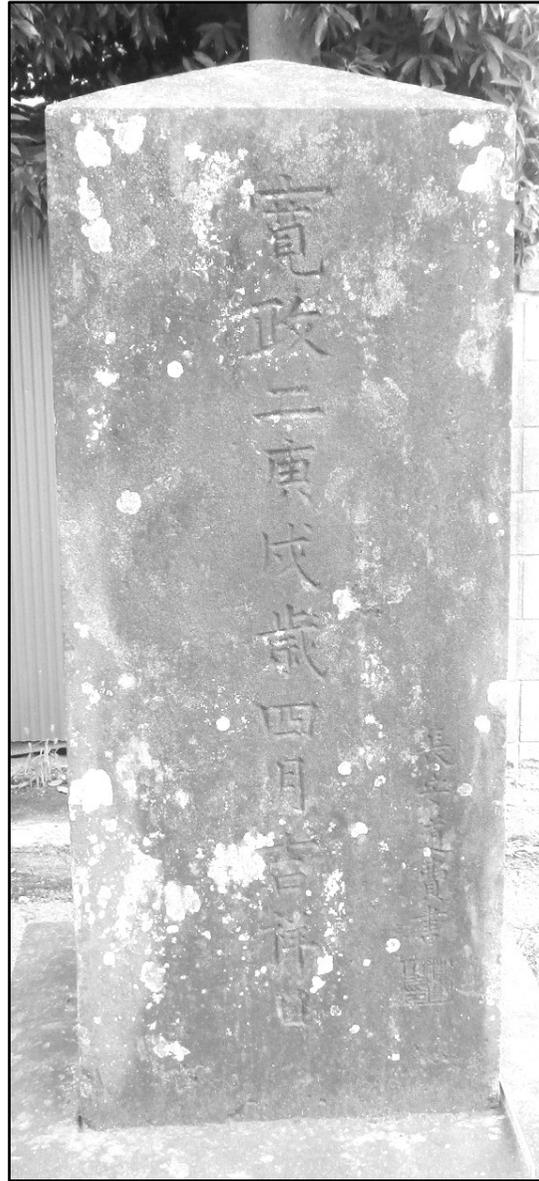
向かって「左」より③ ② ① (撮影：秦野 秀明)



向かって「左」より③ ② ① (撮影：秦野 秀明)



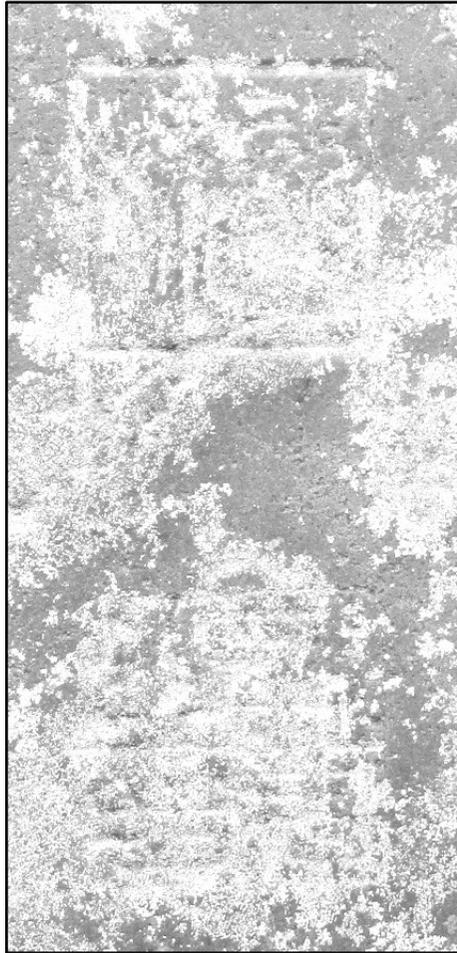
③寛政七乙卯歳  
二月吉日  
(撮影：2025年9月14日)



②寛政二庚戌歳四月吉日  
(撮影：2025年9月14日)



①安永九庚子年  
九月吉日  
(撮影：2025年9月11日)

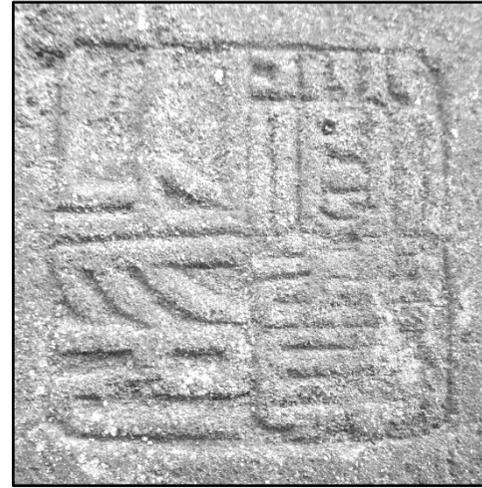
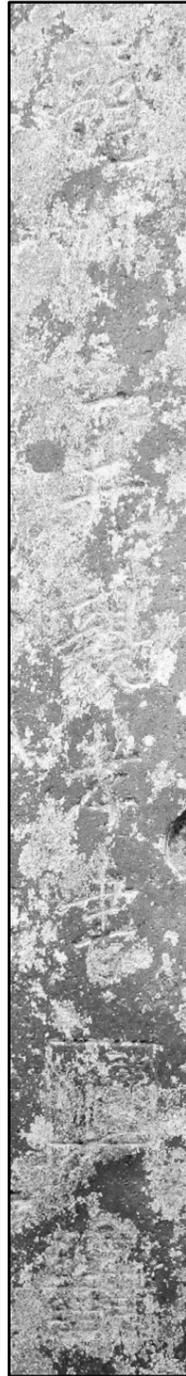


③ ↑ 落款印

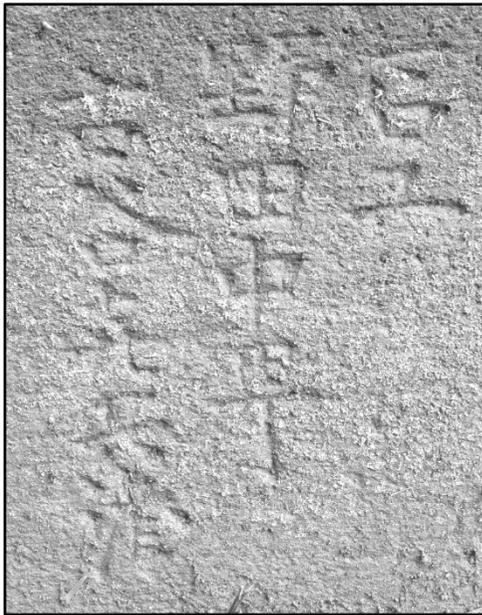
③ → 龍州 三井親孝書

落款印

落款印



② ↑ 落款印



② ↑ 石工  
野田中町  
古谷菟兵治

② → 長安道費書

落款印



②の添付写真「3点」  
(撮影：2025年9月14日)  
③の添付写真「2点」  
(撮影：2025年9月14日)

## 補論：「龍州 三井 親孝」とは

(1)

五二、三井親和

三井親和、字は孺<sup>しんな</sup>卿、通称は孫兵衛といひ、龍湖、萬玉亭、深川漁夫などと号した。もと信濃の人であるが、江戸に来て細井廣澤の門人となり、深川に居住して安永天明の頃専ら世に鳴った。殊に篆書を善くし、当時絹縮緬などに親和の書風の篆書を染め抜き、之を親和染と称して大いに流行した。かく婦女子に至るまでよく知られた書家であって、また弓術にも優れていた。[中略]

天明二年三月七日年八十三で歿した。深川増林寺に葬った。

出典：

奥山 錦洞 (1927) 『日本書道史』 啓文社書店 pp, 248, 249

国立国会図書館デジタルコレクション

<https://dl.ndl.go.jp/pid/1176512/1/170>

(2)

三井親和 龍湖

字孺々 号萬玉亭 称孫兵衛 信州の人 細井廣澤門人

天明二寅年三月七日歿す 年歳八十三 深川寺町増林寺に葬る

三井親孝 龍州

親和男 通称孫四郎 文化十五寅年五月七日歿す 寺同上

出典：

関根 只誠編 (1923-24) 『名人忌辰録 下 (芸苑叢書;第2期)』 風俗絵巻図画刊行会 p, 165

国立国会図書館デジタルコレクション

<https://dl.ndl.go.jp/pid/1183053/1/33>